日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRSj NEWS

PUBLIC RELATIONS SOCIETY OF JAPAN

2016年11月号
NO. 279

TOPICS

「気持ちをひとつに、次の未来へ」
(公社)日本パブリックリレーションズ協会　副理事長　西山隆一郎
MESSAGE　P3

「予告:「新春PRフェスタ2017」を
来年1月25日(水)に開催します！」
ATTENTION　P4

「広報PRアカデミー2016「コミュニケーション・ケーススタディ講座」
第1回「企業広報スタディ」
ATTENTION　P5

「第20回「PRプランナー資格認定検定試験」
1次試験受験予約申込は12月1日(木)から！」
ATTENTION　P6

「異文化勉強会
イラン・イスラム共和国大使館訪問が決定！」
ATTENTION　P8

「『広報・マスコミハンドブック(PR手帳)2017』を刊行
ATTENTION　P9

「2016年度
「日本PR大賞　パーソン・オブ・ザ・イヤー」「日本PR大賞　シチズン・オブ・ザ・イヤー」「PRアワードグランプリ」　今後の予定」
ATTENTION　P10

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号　六本木ヒルズノースタワー5F
電話(03)5413-6760　ファックス(03)5413-2147
URL　http://www.prsj.or.jp/

関西支部　〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F
電話(06)6344-3002　ファックス(06)6344-3005

発行人:近見　竹彦

11月号　目次

11月～12月のスケジュール		1
MESSAGE(メッセージ)	「気持ちをひとつに、次の未来へ」	3
ATTENTION((お知らせ)	「予告:「新春PRフェスタ2017」を来年1月25日(水)に開催します！」」	4
〃	「広報PRアカデミー2016「ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ･ｹｰｽｽﾀﾃﾞｨ講座」第1回「企業広報スタディ」」	5
〃	「第20回「PRプランナー資格認定検定試験」1次試験受験予約申込は12月1日から」	6
〃	「『広報・マスコミハンドブック(PR手帳)2017』を刊行」	8
〃	「2016年度「日本PR大賞パーソン／シチズン」「PRアワードグランプリ」 今後の予定」	9
BULLETIN(活動報告)	「広報PRアカデミー2016「広報・PRブラッシュアップ講座」全4回を終了」	10
〃	「広報PRアカデミー2016「第4回特別シンポジウム」を10月27日に開催」	11
〃	「81名の2016年度前期(第18回)PRプランナー誕生 PRプランナーは、2,100名に！」	12
〃	「企業部会 第16回「広報活動研究会」開催報告」	14
REPORT(講演レポート)	「第177回定例研究会 〝読者目線〟に徹する『BuzzFeed Japan』の新展開」	15
VOICE of PR PLANNER	「PRプランナー仲間が、2,000名を超えて思う事」	16
〃	「もったいない」	17
PR TREND(PRﾄﾚﾝﾄﾞ(関西)	「日本最古の巡礼所33寺院、毎日1杯のコーヒーを我慢してPRスタート！」	18
BOOKS(書籍・参考文献)	「兆しをとらえる 報道プロデューサーの先読み力」	20
協会掲載記事	「PRSJ in Media 11月」	21

11月～12月スケジュール

第 15 回PRプランナー交流会（PRプランナー部会）	日　時	11 月 9 日(水)
	会　場	第1部施設見学会:朝日新聞東京本社 第2部交流会(会場未定)
第 19 回PRプランナー資格認定制度検定 2 次試験	日　時	11 月 13 日(日) 10:20～15:35
	会　場	東京富士大学 5 号館(東京) 毎日インテシオ(大阪) AP名古屋 7F(名古屋)
広報PRアカデミー2016 コミュニケーション・ケーススタディ講座 第 1 回「企業広報スタディ」	日　時	11 月 16 日(水) 19:00～21:00
	会　場	六本木アカデミーヒルズ 49
	講　師	㈱電通パブリックリレーションズ　企業広報戦略研究所 主席研究員　黒田明彦氏
	テーマ	「『オクトパスモデル』分析に基づく企業広報力強化のポイント」
第 3 回PRプランナーフォーラム in 関西（PRプランナー部会）	日　時	11 月 17 日(木) 18:30～20:25
	会　場	コンベンションルーム AP大阪梅田茶屋町
	講　師	トライベック・ストラテジー㈱ 代表取締役社長 後藤 洋氏
	テーマ	「広報担当者のための『Webで“伝わる”広報 7 つのポイント』
第 45 回親睦ゴルフ会	日　時	11 月 22 日(火)
	会　場	宍戸ゴルフカントリークラブ
第 179 回定例研究会	日　時	11 月 24 日(木) 12:00～14:00
	会　場	六本木アカデミーヒルズ 49
	講　師	日本放送協会(NHK) 報道局取材センター 経済部長 絹川智紹氏
	テーマ	「NHKがめざすこれからの経済報道 ～NHK経済部の今と今後の報道展開を語る～」
第 24 回広報ゼミ(企業部会)	日　時	11 月 30 日(水) 16:00～18:30
	会　場	凸版印刷㈱ トッパン小石川ビル 2F
	講　師	国際大学 GLOCOM 講師 山口真一氏
	テーマ	「NET炎上 レクチャー＆ワークショップ」
第 38 回PRスキル研究会（PR業部会）	日　時	11 月 30 日(水) 17:30～
	会　場	㈱オズマピーアール
	講　師	(公社)日本パブリックリレーションズ協会 事務局長 渡邉 啓
	テーマ	「スパイクス・アジアに見るPRの潮流」(仮)
2016 年度「PRアワードグランプリ」グランプリ選考審査	日　時	12 月 7 日(水) 13:30～18:30
	会　場	六本木アカデミーヒルズ 49「オーディトリアム」
広報PRアカデミー2016 3 次試験対応講座	日　時	12 月 8 日(木)、14 日(水)、21 日(水) 1 月 5 日(木)、11 日(水)、17 日(火)　いずれも 19:00～21:30
	会　場	六本木アカデミーヒルズ 49
なでしこカウンシル	日　時	12 月 12 日(月) 18:00(予定)～
	会　場	Trattoria Godereccio(恵比寿)
	講　師	日経BP社 日経BPヒット総合研究所長 麓 幸子氏
ワールドカフェ(PRプランナー部会)	日　時	12 月 13 日(火) 19:00～21:30
	会　場	日通NEX-TEC芝浦
広報PRアカデミー2016 コミュニケーション・ケーススタディ 第2回「危機管理広報スタディ」	日　時	12 月 15 日(木) 19:00～21:00
	会　場	六本木アカデミーヒルズ 49
	講　師	㈱田中危機管理広報事務所 代表取締役社長 田中正博氏
	テーマ	「クライシス事例の分析に基づく危機対応力の強化」

11月～12月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会	**（11 月度）**	日　時	：	11 月　8日（火）	12:00～14:00
	（12 月度）			12 月　13 日（火）	12:00～14:00
		会　場	：	11 月：六本木ヒルズクラブ	
				12 月：日本記者クラブ　9F　大会議室	
教育委員会	**（11 月度）**	日　時	：	11 月　16 日（水）	12:00～14:00
	（12 月度）			未定	
		会　場	：	協会会議室	
資格委員会	**（11 月度）**	日　時	：	11 月　17 日（木）	16:00～18:00
	（12 月度）			12 月　22 日（木）	12:00～14:00
		会　場	：	協会会議室	
国際・交流委員会	**（11 月度）**	日　時	：	11 月　10 日（木）	11:00～12:30
	（12 月度）			未定	
		会　場	：	協会会議室	
広報委員会	**（11 月度）**	日　時	：	11 月　7日（月）	16:00～18:00
	（12 月度）			12 月　5日（月）	16:00～18:00
		会　場	：	協会会議室	
顕彰委員会	**（11 月度）**	日　時	：	11 月　16 日（水）	10:00～12:00
	（12 月度）			未定	
		会　場	：	協会会議室	
企業部会幹事会	**（11 月度）**	日　時	：	11 月　1日（火）	17:00～18:00
	（12 月度）			12 月　6日（火）	17:00～18:00
		会　場	：	協会会議室	
ＰＲ業部会幹事会	**（11 月度）**	日　時	：	11 月　15 日（火）	16:00～18:00
	（12 月度）			12 月　20 日（火）	16:00～18:00
		会　場	：	協会会議室	
ＰＲプランナー部会幹事会	**（11 月度）**	日　時	：	11 月　22 日（火）	19:00～21:00
	（12 月度）			未定	
		会　場	：	㈱ADKアーツ　会議室	

気持ちをひとつに、次の未来へ

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
副理事長　西山隆一郎

本年６月より、企業部会長、コンプライアンス会議議長、副理事長を拝命致し、あっという間に５カ月が経過しました。偉大な諸先輩方の後を受け、重責に押しつぶされそうですが、協会の益々の発展に向けて、それはすなわち広報・ＰＲに携わる法人・個人の皆様の躍進にお役に立てることでもあり、微力ながら精一杯努力してまいる所存です。

さて、個人的で恐縮ですが、振り返ってみますと、私自身の広報経験は 17 年半を過ぎましたが（まだ 17 年半！）、この仕事の正解・ゴールには到底辿り着けず、日々、発生した事象に直面する都度、仲間たちと知恵を絞りながら、七転び八起きで対応しています。
環境は常に変化、そして進化しており、普遍的な正解など存在していないのかもしれませんが、この仕事をする上での気の持ちようの正解として自信を持って言えることは、広報・ＰＲの仕事は“楽しく”活動することが大切である、ということです。嬉しいことや、また逆に困難に直面することがあっても、みんなで頑張ったのなら、最後は“楽しく”、いつも“楽しく”総括してしまうのが、次のフェーズへ向けて新たな視点での発想、行動に繋がっていくものだと思っています。

そのようななか、本欄の 10 月号で大石副理事長がお書きになった“協会は楽しく！が決め手です。”を拝読し、「やっぱりそうですよね！」と意を強くしました。実際、この５カ月間に、協会活動を通じて会員の皆様との新たな出会いも既に多くあり、会社、業界を超えて苦楽を楽しく共有できる輪の広がりを実感しました。

協会としても、各委員会・部会の日頃の活動、資格制度、日本ＰＲ大賞、そしていよいよ審査が始まりますＰＲアワードグランプリ等、活動は多岐に亘っておりますが、常にベターを追求し、会員の皆様と気持ちをひとつに、次の未来へ向けて前進していきたいと思っています。

是非、様々な企画・イベントに気軽にご参加いただき、楽しく交流してまいりましょう。

徒然なるままに、日暮らし硯に向かいて、大変失礼しました。

ATTENTION

予　告

「新春ＰＲフェスタ 2017」を
来年１月 25 日(水)に開催します！

恒例の「新春ＰＲフェスタ 2017」の開催が１月 25 日（水）に決定されました。
会場は有楽町の日本外国特派員協会（ＦＣＣＪ）です。

参加費は 8,000 円といたしましたので、お誘いあわせの上、積極的なご参加をお願いいたします。

１月 25 日(水)当日のスケジュールは以下の通りです（予定)。

	時　間	内　　容
新春ＰＲフォーラム 第１部	16：00～17：00	「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」 「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」表彰式
新春ＰＲフォーラム 第２部	17：00～18：00	特別講演会 ・ゲスト　会田弘継　青山学院大学 教授 ※テーマは決まり次第ご案内いたします。
	18：00～18：15	質疑応答
	18：30～20：00	賀詞交歓会

【会田弘継氏のプロフィール】

青山学院大学 地球社会共生学部教授、共同通信客員論説委員。1951 年生まれ。
東京外国語大学英米科卒。
共同通信ジュネーブ支局長、ワシントン支局長、論説委員長、日本記者クラブ理事などを歴任。
2015 年４月から現職。

著書に『追跡・アメリカの思想家たち』（新潮選書）、
『戦争を始めるのは誰か』（講談社現代新書）など多数。
近著は『トランプ現象とアメリカ保守思想』（左右社）。

広報PRアカデミー2016

コミュニケーション・ケーススタディ講座 第1回「企業広報スタディ」
「『オクトパスモデル』分析に基づく企業広報力強化のポイント」

教　育　委　員　会

協会では、来る 11 月 16 日、「コミュニケーション・ケーススタディ講座」第１回の企業広報スタディ「『オクトパスモデル』分析に基づく企業広報力強化のポイント～組織コミュニケーション活動の強化に向けた戦略的アプローチ～」を六本木アカデミーヒルズにて開講いたします。

「コミュニケーション・ケーススタディ講座」は、最新の事例紹介やケーススタディを通してそれらの背後にある広報・ＰＲの原理や原則の理解をはかるとともに、業務における応用能力を養成することをめざします。第１回は、「『オクトパスモデル』分析に基づく企業広報力強化のポイント」をテーマとして、電通パブリックリレーションズ企業広報戦略研究所主席研究員の黒田明彦氏をお招きし、企業の「広報力」の評価やその強化法についてお話しいただきます。

■「『オクトパスモデル』分析に基づく企業広報力強化のポイント」概要

経営環境が激しく変動する現在、企業ブランドやレピュテーションの向上やステークホルダーとの良好な関係性の構築は、企業経営にとって重要な課題です。その経営課題の達成をめざし、多くの企業がコーポレート・コミュニケーション活動への積極的な取組みを進めています。

経営課題の解決を目的としたコミュニケーション活動を効果的に推進するには、まず自社の「広報力」（広報業務を効果的に遂行する組織的行動力）における強みや弱みを正確に把握することが必要です。自身の姿を正確に把握し組織的に取り組むことができるのであれば、広報部門はいっそう効果的なコミュニケーション活動を計画し、実施することが可能となります。

本講座では、企業の広報力を「情報収集力」「情報分析力」「戦略構築力」「情報創造力」「情報発信力」「関係構築力」「危機管理力」「広報組織力」の８つの軸から分析する独自の手法「オクトパスモデル」を開発した電通パブリックリレーションズの黒田明彦氏を講師に迎えます。

講座では、受講者の皆様の所属する企業の広報力を実際に把握していただくとともに、ケーススタディとして、積極的にコミュニケーション活動に取り組んでいる企業の実例を、オクトパスモデルからとらえ、その企業の経営課題と広報力の関係について考えます。 本講座の受講者は、自社の広報活動を客観的に分析する視点を養い、「広報力」の強化を推進するための基本的な考え方を習得することができます。

受講の詳細ならびにお申込は、下記のＵＲＬをご参照ください。

http://event.prsj.or.jp/pr-academy-2016/case-corporate

PRプランナー資格認定制度

第20回「PRプランナー資格認定検定試験」
１次試験受験予約申込は12月１日（木）から！
東京・大阪・福岡で実施！

資　格　委　員　会

第20回となるＰＲプランナー資格認定検定試験１次試験（実施：3月5日(日)）を、東京・大阪、福岡会場にて実施します。

日本ＰＲ協会が認定する「ＰＲプランナー資格認定制度」は、広報・ＰＲの業務に求められる専門的な知識やスキル、職能意識等を検定し資格として認定する、公益法人としてわが国唯一の資格制度です。検定試験は１次から３次にわたり、さらに書類審査を経て、広報・ＰＲに関する高い専門能力の保有を認定する「ＰＲプランナー」資格を取得することができます。本制度は2007年より発足しすでに16回の試験を実施、難関を突破し資格を取得した1,928名のＰＲプランナーが一般企業、ＰＲ会社、政府機関や自治体等で活躍しています。

受験予約申込は、1月20日（金）までとなっておりますが、定員に達し次第締め切らせていただきますので、予めご了承くださいますようお願い申し上げます。

＜ＰＲプランナー資格認定制度／検定第１次試験　実施概要＞

試験日	2017年3月5日（日） 試験は東京・大阪・福岡会場ともに3月5日（日）午前中に同時実施・終了する予定です。
募集定員	東京：400名・大阪会場：80名・福岡会場：60名
受験応募・申込方法	資格制度Ｗｅｂサイトで受験予約を行った上で申込書を郵送
受験予約期間	2016年12月1日（木）～2017年1月20日（金）
申込書送付期間	2016年12月2日（金）～2017年1月27日（金）＜必着＞
受験票送付	2017年2月17日（金）発送
合否通知送付	2017年3月17日（金）発送 ・受験申込書にご記入いただいたご住所に、合否通知を発送いたします。 ・合格された方には、2次試験ならびにＰＲプランナー補認定申請のご案内を、メールでも3月21日（火）にお送りします。

＜試験時間＞

０９時３０分	各試験会場に入館できます
１０時２０分	指定の教室・座席にご着席ください
１０時２５分	注意事項伝達・試験問題配布
１０時４０分	試験開始
１２時００分	試験終了

※資格検定試験の詳細は、以下ＵＲＬの協会ＰＲプランナー資格Webサイトをご覧ください。

http://pr-shikaku.prsj.or.jp/

受験会場

第 20 回ＰＲプランナー資格認定検定試験（1 次試験）の験会場は、東京・大阪・福岡の下記会場となります。試験開始時刻の「20 分前」までにお越しになり、指定の座席にご着席ください。

※車での来場はお控えください。公共の交通機関をご利用ください。
※一部の公共交通機関に乱れが生じた場合も、原則として予定通りの時間に試験を開始します。
　時間に余裕を持ってお越しください。

東京会場

東京富士大学
東京都新宿区高田馬場３－８－１

・ＪＲ山手線、西武新宿線、東京メトロ
「高田馬場駅」下車 徒歩 10 分

大阪会場

毎日インテシオ
大阪府大阪市北区梅田３－４－５

・ＪＲ大阪駅、阪急、阪神、地下鉄各駅から
「西梅田地下歩行者道」を通り徒歩約 15 分。

西梅田地下歩行者道「6－10」番出口から 毎日インテシオ入口にお入りいただき、エスカレータとエレベーターで会場へお越しください。

福岡会場

ＡＱＵＡ博多
福岡県福岡市博多区中洲５－３－８

・地下鉄空港線「中洲川端駅」下車 徒歩４分

『広報・マスコミハンドブック（PR手帳）2017』を刊行

広　報　委　員　会

「ＰＲ手帳」は協会設立以来継続して発刊され、で 37 回目を迎えます。
11 月末に書店店頭に並ぶ予定です。

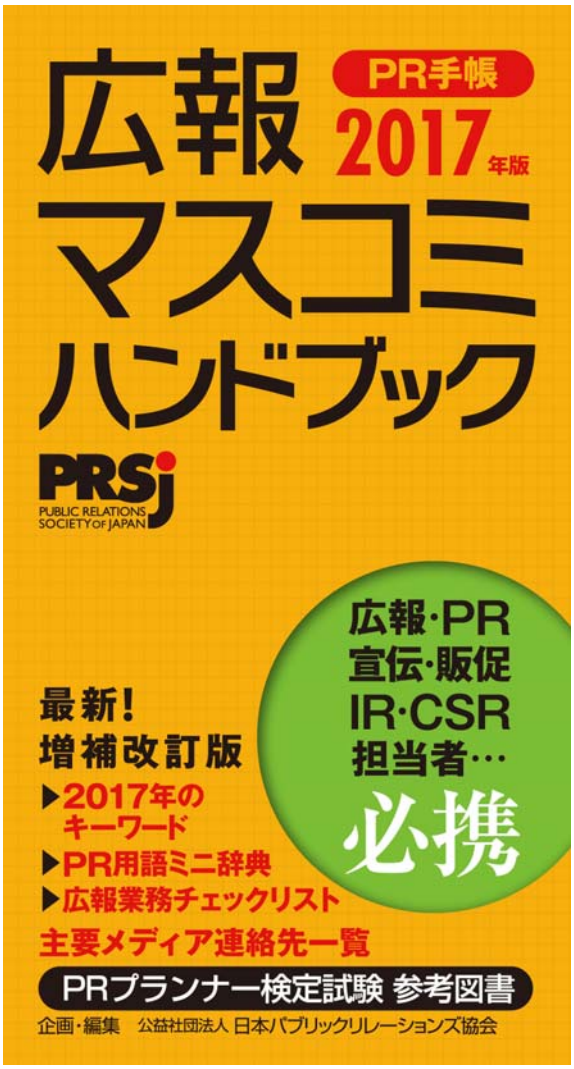
この「ＰＲ手帳」は、最新のＰＲ・マスメディア情報を満載したデータ集であることから、マスコミへのアプローチに不可欠の一冊、“情報源バイブル”として、広報・ＰＲ、宣伝・販促、ＩＲ・ＣＳＲの担当者を中心に、幅広く活用されています。
内容は毎年刷新して実務により役立つ内容を充実させ、最新データに更新しています。

●主要コンテンツと掲載データ：
今を読み解くkeyword／知っておきたいFactdata／「パブリックリレーションズ」の解説／広報業務チェックリスト／ＰＲ・ＩＲ用語ミニ辞典／ＰＲ関連団体／企業の文化施設／主要メディア連絡先一覧／主要サイト一覧／記者クラブ／官公庁・各種団体／イベント会場／2016年記念日カレンダーなど

●価格：2,000 円（1,852 円＋税）
（会員は 1,100 円（1,019 円＋税））

●販売：　協会事務局、首都圏・大阪・名古屋をはじめ、福岡・札幌等、全国主要書店で広く販売されています。

事務局では随時注文を承っており、皆さまのご利用をお待ち申し上げております。



表紙カバーデザイン

なお、協賛広告のご出稿をいただきました会員会社各位には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

※　「『広報マスコミハンドブック（ＰＲ手帳）2017』を刊行」のニュースリリースを11 月中旬ごろに配信する予定ですので、発表までは情報の取り扱いにご注意ください。

2016年度「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」「PRアワードグランプリ」 今後の予定

顕 彰 委 員 会

「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、顕彰委員会で絞り込んだ方々を審議し「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」は14名、「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」は14件に絞り込みました。10月28日（金）、会員の皆様に受賞候補者(団体)の投票をお願いいたしました。

「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」はパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性や好感度、発想の斬新さなどを観点に、その年に経済活動、文化･スポーツ、社会･教育などの分野でＰＲ（パブリックリレーションズ）の視点から、この年に最も活躍した人物を、「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」は長年にわたり社会や業界の発展に寄与し、奨励に値する実務を実践した上で、広報・ＰＲの観点からもその独創性が顕著である人物、またはそのグループ（団体）を、表彰するものです（11月10日締切)。

今後の進行として、投票結果を基に、11月度の顕彰委員会で両部門の候補者を最終決定し、各候補者へ折衝、12月度理事会で承認という流れで進めていく予定です。

「ＰＲアワードグランプリ」は10月31日(月)、作品のエントリー募集を締め切り、グランプリ候補作選出審査を11月14日（月）に開催いたします。

グランプリ候補作選出審査は審査委員長のもと、8 名の審査委員で審査団を構成。一堂に会し議論形式で、部門横断で全作品を審査し、「シルバー以上8作品」（グランプリ選出審査に進む作品）および「ブロンズ7作品」を決定、発表します。

「シルバー以上8作品」のプレゼンテーションによる審査が行われるグランプリ選出審査は、12月7日（水）六本木アカデミーヒルズ49「オーディトリアム」で開催されます。

審査は協会外部から特別審査員（3名）と審査団（8名）の計11名によるディスカッションベースで進行し、協議の後、「グランプリ」「ゴールド」「シルバー」の各賞受賞作を決定します。
表彰式は最終審査会終了後、同会場にて引き続き行います。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

広報PRアカデミー2016

「広報・PRブラッシュアップ講座」全4回を終了

教　育　委　員　会

協会では、今年度設定した新講座「広報・ＰＲブラッシュアップ講座」4講座を10月5日から4回にわたり開講いたしました。

「広報・ＰＲブラッシュアップ講座」は比較的業務経験の少ない広報・ＰＲ実務者を主な対象として、重要性の高い4つのテーマを取り上げ、業務遂行に求められる基本的なスキルをベテラン講師による講義と演習を通じて習得することをめざした講座です。

今年度は、メディア対応の基本を学ぶ「ベーシック・メディアリレーションズ」、広報・ＰＲ計画作成の基本を学ぶ「ベーシックＰＲプランニング」、PowerPointを活用した企画書等のドキュメントに関する作成ポイントを習得する「ベーシック・ドキュメンテーション」、プレゼンテーション技法の基本を習得する「ベーシック・プレゼンテーション」の4講座を開講しました。

10月5日開催の第1回「ベーシック・メディアリレーションズ」は、株式会社スペインクラブの田代　順氏が講師を担当、テレビ、新聞、通信社、雑誌、ネットなど様々なメディアの媒体特性を解説し、対応の基本について解説が行われました。10月12日には、第2回「ベーシック・ＰＲプランニング」を開講しました。株式会社井之上パブリックリレーションズの横田和明氏、高野祐樹氏が2名で講師を担当、経営目標に基づき設定されるＰＲ目標から、それを達成するための戦略とコミュニケーションプログラムの計画・立案に至る一連のプロセスで策定されるＰＲプランニングについて講義と演習が実施されました。そして10月19日には、第3回「ベーシック・ドキュメンテーション」の講座をデプラス株式会社の秋山太一郎氏の指導のもとに開講、伝達のしくみから記憶に配慮した情報の提供法、PowerPoint活用法、プレゼン資料の作成のポイントについて、演習を交えた講座が行われました。最後となる10月26日には第4回となる「ベーシック・プレゼンテーション」を開講しています。講師には株式会社グローコムの岡本純子氏が講師を担当、プレゼンテーションがビジネスに定着している欧米の最先端ノウハウやスキルに基づくプレゼンテーション技法の指導が行われています。

4回の講座は広報・ＰＲ業務の遂行に必須となる基本的スキルに焦点をあて、集中的にポイントを習得することを目的として企画されました。教育委員会では、4月の「広報・ＰＲ基礎講座」とともに、経験の少ない広報・ＰＲ担当者の実務能力を強化する講座として、洗練された内容の講座として充実するよう検討を深めていきます。

広報PRアカデミー2016

「第4回特別シンポジウム」を 10 月 27 日に開催

～「多様性社会を担うPRプロフェッショナルの役割とキャリア像」～

教　育　委　員　会

10 月 27 日（水）、東京・千代田区の「ベルサール神保町」において、第 4 回ＰＲＳＪ特別シンポジウム「多様性社会を担うＰＲプロフェッショナルの役割とキャリア像」を開催しました。

ＰＲＳＪ特別シンポジウムは、広報・ＰＲにとってタイムリーかつ話題性のあるテーマのもとに、有識者や実務専門家、企業マネージャーを招き、講演やパネルディスカッション等を通じてそのテーマの背景にある課題や本質を探るセミナーです。今回のシンポジウムでは、多様化の進む現代社会において、次代を担うＰＲプロフェッショナルが身につけるべきスキルやキャリア、人間力、そして働き方について、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

第1部の基調講演では、日経ＢＰ社執行役員の麓　幸子氏が登壇、女性キャリア誌の編集者として培った豊富な知見や出版社の経営の一翼を担うマネージメント経験に基づき、“多様性”社会の特徴や企業と社会のかかわり、ビジネスパーソンのキャリア形成の視点等について、お話しいただきました。

第2部のパネルディスカッションでは、パネリストとして、企業、ＰＲエージェンシー、ＰＲ実務家の立場から、ＭＳＤ株式会社 執行役員 広報部門統括の山下節子氏、株式会社博報堂ケトル代表取締役社長 嶋　浩一郎氏、株式会社グローコム 代表でコミュニケーションストラテジストの岡本純子氏にご登壇いただき、基調講演を行った麓　幸子氏をモデレーターとして、活発な意見がかわされました。まず3人のパネリストから自身の仕事とキャリア形成を振返る自己紹介が述べられ、その後、モデレーターの麓氏からの質問に答える形で、多様性社会をどうとらえるのか、ＰＲにかかわる人々の役割やキャリア形成に関するコメントが1時間余りにわたって行われています。麓氏の巧みなリードのもとに、立場の異なる3名のパネリストの見解が余すところなく示されました。

進行とともに会場は聴講者の熱気に包まれ、最後に会場からの質問に答える質疑応答が行われました。聴講者の真剣な質問に登壇の 4 名は的確にコメント、予定の終了時刻を過ぎた午後 9 時にようやく本シンポジウムは終了しました。司会者の閉会宣言にもかかわらず登壇者と聴講者の名刺交換など交流が続き、名残惜しさに包まれるこの日のシンポジムとなりました。

麓　幸子氏

山下節子氏

嶋浩一郎氏（左)と岡本純子氏（右）

ＰＲプランナー資格認定制度

81 名の 2016 年度前期(第 18 回)PRプランナー誕生
PRプランナーは、2,100 名に！

資　格　委　員　会

今年 7 月に実施された第 18 回ＰＲプランナー資格検定 3 次試験の合格者 86 名のうち 81 名が、9 月に行われた書類審査を経て、ＰＲプランナーの資格を取得されました。

ここに、長期間にわたるご奮闘に敬意と祝意を表してご氏名を公表させていただきますとともに、今後のさらなるご研鑽とご活躍を期待いたします。

2016 年度前期（第 18 回） PRSJ 認定PRプランナー

（50 音順／敬称略）

◇個人名、所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

池田 愛之　（(株)電通パブリックリレーションズ）
稲葉 俊介　（(株)えがお）
浦賀 真太郎（(株)井之上パブリックリレーションズ）
江藤 芳　（(株)ゼンリン）
小原 大介　（ＮＴＴレゾナント(株)）
神吉 佑貴　（奈良アクア・ラボ(株)）
小島 みどり（三浦印刷(株)）
小長谷 一樹（(株)日本ハウスホールディングス）
小林 夏美
小原 正之　（学校法人東京理科大学）
清水 友紀　（アライドアーキテクツ(株)）
白石 キクエ（(株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ）
新海 桃子　（(株)コックス）
鈴木 隆仁　（(株)サニーサイドアップ）
高橋 勇一郎（(株)ＰＨＰ研究所）
高松 幹夫　（(株)サイバー・コミュニケーションズ）
田口 龍　（(株)電通パブリックリレーションズ）
竹村 亘弘　（(株)ＪＲ西日本コミュニケーションズ）
田中 純子　（(株)エイレックス）
鶴 祐子　（(株)構造計画研究所）
中里 慶昭　（(株)電通）
永嶌 幸平　（コカ・コーラウエスト(株)）
原内 理恵　（(株)ビザビ）
樋田 哲也　（コカ・コーラウエスト(株)）
福冨 全代　（パナソニック(株) エコソリューションズ社）
前川 剛　（西日本高速道路(株)）
桝井 菜々子（ＭＭＳコミュニケーションズ(株)）
松本 矩宜　（(株)プレナス）
三浦 僚　（(株)電通九州）
村上 美里　（フラワー・ロボティクス(株)）

森竹 佑真　（共同ピーアール(株)）
山本 智　　（(株)クロス・マーケティンググループ）
山本 真梨子（青山商事(株)）
吉原 尊樹　（医療法人社団美心会 黒沢病院）
米澤 孝浩　（エイベックス・デジタル(株)）
脇 瑠海　　（テンプホールディングス(株)）

◇個人名、所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

浅野 舞　　（ＰＲ関連会社）
浅葉 彩　　（一般企業(その他の部署)）
梅澤 文　　（一般企業(広報・ＰＲ関連部署)）
延命 紀子　（一般企業(広報・ＰＲ関連部署)）
北村 武男　（一般企業(広報・ＰＲ関連部署)）
Roselle Kingsbury（ＰＲ関連会社）
塩津 孝博　（ＰＲ関連会社）
主代 さや　（ＰＲ関連会社）
人見 能貴　（一般企業(その他の部署)）
福岡 智亜紀（一般企業(広報・ＰＲ関連部署)）
宮川 歩　　（一般企業(広報・ＰＲ関連部署)）
本井 啓貴　（一般企業(広報・ＰＲ関連部署)）
諸星 和義　（その他）
横倉 典　　（一般企業(広報・ＰＲ関連部署)）
吉永 明洋　（一般企業(広報・ＰＲ関連部署)）

◇所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

曙ブレーキ工業(株)　　…女性１名
(株)ＮＴＴデータ　　…女性２名
コカ・コーラウエスト(株)…女性１名
サンワテクノス(株)　　…女性１名
(株)資生堂　　…女性１名
資生堂ジャパン(株)　　…女性１名
積水化学工業(株)　　…女性１名
日本電気(株)　　…女性１名
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 …女性１名
ヘラマンタイトン(株)　　…男性１名

◇所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

ＰＲ関連会社　　…女性１名
一般企業(広報・ＰＲ関連部署)…男性２名、女性９名
一般企業（その他の部署）　　…男性１名

※上記ＰＲプランナーの皆様には、事前に掲載の承諾を得ております。

会 員 限 定

第 16 回「広報活動研究会」(2016 年 10 月 11 日)開催報告
『東京ガーデンテラス紀尾井町』見学

企 業 部 会

企業部会では、企業施設によるコーポレートコミュニケーションを体感していただき、企業の広報活動（機能、組織、運営体制など）の実際を学ぶことを目的に「広報活動研究会」を開催しています。

第 16 回の「広報活動研究会」は、「みどりと歴史に抱かれた国際色豊かな複合市街地」を目指し、西武グループでは初めてとなる大型複合開発として、本年 7 月 27 日にグランドオープンいたしました『東京ガーデンテラス紀尾井町』を皆様に見学していただきました。

当日は、32 名のご参加をいただきました。

会 員 限 定

第177回定例研究会

“読者目線„に徹する『BuzzFeed Japan』の新展開

～目指すは「世の中へのポジティブなインパクト」～

講師：BuzzFeed Japan 株式会社
創刊編集長
古田大輔氏

第 177 回（9 月度）は 9 月 28 日（水）ＡＰ秋葉原で開催しました。

講師は BuzzFeed Japan㈱　創刊編集長　古田大輔氏。テーマは「“読者目線”に徹する『BuzzFeed Japan』の新展開～目指すは「世の中へのポジティブなインパクト」～」でした。

参加者は 54 名です。

PRプランナー仲間が、2,000 名を超えて思う事

シクロマーケティング株式会社
花田謙一

はじめまして。シクロマーケティング株式会社の花田謙一と申します。

自身、ＰＲの仕事を体系的に整理したいと思っていたところに「ＰＲプランナー資格」の存在を知り、2009 年に取得しました。試験勉強の過程でＰＲの奥深さをあらためて知り、自分の仕事が「パブリックリレーションズ」の中のほんの小さな一部分なんだと感じた事を思い出します。

現在は日々ＰＲエージェンシー業務をこなしつつ、プランナー資格保持者で組織する「ＰＲプランナー部会」に所属させて頂き、微力ながらお手伝いさせて頂いています。

嬉しいことに今年は仲間が 2,000 名を超えました。

この部会では保持者の皆さんが「取得してよかった！」と思えるよう、プランナー有志の約 20 名が幹事となって「認知向上」や「メリット」などをテーマに分科会形式で活動しています。
私はその中で「交流会分科会」を担当させて頂き、「交流会」や「朝活」などプランナー同士の交流促進をテーマに企画・運営に携わらせて頂いています。昨年はＮＴＴドコモの施設見学を兼ねた交流会、今年はＪＡＬへの施設見学と交流会、直近では朝日新聞社での施設見学と交流会がまもなく実施される予定で、毎回 60 名ほどの方々が交流を深めていらっしゃいます。
また夜に時間が取れない方のために朝 8 時スタートの交流会「朝活」も実施していて、少しでも多くのプランナーが交流を図れるよう活動しています。
その参加者の声や後日のアンケート結果を見ると、「ＰＲ仲間のネットワークを広げたい」という声が多いと感じています。
まだまだ広報部門に多くの人材を確保できる企業は少なくて、「一人広報」で日常の広報・ＰＲ業務に相談する相手が居ないなど、孤軍奮闘されている方々も多いようです。そんなプランナー仲間に今後もネットワークを広げて頂けるよう有意義な企画を作って行ければと思っています。

将来、交流会を通じて作られたネットワークで何か新しい価値あるＰＲが生まれるかもしれません。その時、「あの交流会で知り合ったんだよ」と言って頂けるように頑張って行きたいですね。

そしていつか、全国 2,000 名を超えるＰＲプランナーの皆さんで一斉にひとつのテーマをＰＲすることができるようになると面白いな、、なんて妄想する今日この頃です。

「もったいない」

エンタテインメント業界
福地聖佳

こんにちは。エンタテインメント業界で広報を担当している、福地聖佳と申します。
「もったいない」
これが、私のＰＲ業務における、一つのキーワードとなっています。

一昔前のように、「良いものを作れば売れる」という時代ではなくなってきました。情報があふれ、趣味趣向が多様化している昨今。「知ってもらう」ということがどれだけ大切で、それがどれだけ困難なものか。

つまり、「知られていないけれど、素晴らしいもの」が、この世の中には無数とある。そんな商材と出会い、ＰＲを担当することになると、胸がわくわくするのです。「こんなに素晴らしいものがあったなんて。“もったいない”」って。誰にメッセージを届ける？どんなコミュニケーションをする？どう魅せる？もっともっと知ってもらいたい、手に取ってもらいたい！

ＰＲは、「0(ゼロ)を 1(イチ)に」する仕事ではなく、「1（イチ）を 100（ヒャク）に」する仕事だと私は考えています。だから、「産む」というよりは「育てる」仕事。あらゆる商材は、「ＰＲ」の仕方次第で、何百倍にもその魅力を増して伝えることができる。その商材がもつ、本来の魅力を引き出し、世間にマッチするように断面を丁寧に切り取り、ベストタイミングで発信していく。クリエイターのように、奇抜で面白いアイデアを提案することが苦手な私にとって、物事の素晴らしい点を見つけてそれを膨らましてゆく「1 を 100 に」するＰＲという仕事は、まさに天職だと思っています。

しかしながら、ＰＲという仕事については、日本の社会全体において認知や理解が進んでいないと感じます。「費用対効果はどうなの？」「ＰＲと広告・宣伝って違うの？」よく聞かれる言葉です。

「ＰＲプランナー」という資格は、そういった世の中に、「ＰＲ」という仕事の素晴らしさや役割を伝えていく、それこそ「ＰＲのＰＲ」だと思っています。また、「ＰＲプランナー」資格取得者の皆さんとの交流は、非常に刺激的です。先述の通り、「0 を 1」にすることが苦手な私にとっては、「引き出し」勝負なのです。様々な業界で活躍されている「ＰＲプランナー」の皆さんのＰＲテクニックをお伺いする機会は、この上ない勉強の場。また、ＰＲに関するあらゆる悩み相談・共有できる点も魅力です。

自分の職種を、「資格」として認定していただける制度があることを、私はとても心強く思っています。同じ志を抱く「ＰＲプランナー」の皆さんから刺激を受けながら、「もったいない」をなくしていく。ＰＲには、わくわくする可能性しかありません。

＜コラム関西の風＞

日本最古の巡礼所 33 寺院、毎日 1 杯のコーヒーを我慢してPRスタート！

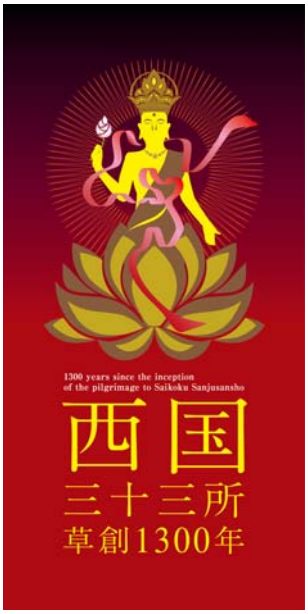
㈱TMオフィス　代表取締役
殿村美樹

関西でＰＲ業を営んで 28 年。形のないものにお金を払わない土地柄だけに、常にＰＲを知らない人たちを相手に仕事を重ねてきました。その甲斐あって畳業界や文化団体など、広告しか知らなかった業界の人たちが少しずつＰＲの醍醐味に気づき始めています。

そんな中で今年、日本最古の巡礼所 33 寺院で構成する「西国三十三所」が史上初めて、マーケティングＰＲにトライすることになりました。

2 年後の 2018 年に草創 1300 年を迎えるため、これを機に「巡礼といえば四国八十八か所よね」と言われてしまう現在の風潮を一転させ、日本最古の巡礼路として名誉挽回をはかることにしたのです。そして、「餅は餅屋に」と光栄にも弊社に白羽の矢を立ててくださいました。しかし弊社はＰＲ会社なのでフィーが必要になります。まずは、それが問題になりました。

というのは「西国三十三所」を構成する寺院は、京都の清水寺、華道発祥の六角堂、秀吉大茶会の醍醐寺など、放っておいてもマスコミが押しかけてくる名刹ばかりで、ＰＲにお金をかけるなど考えたことも無かったからです。



西国三十三所
草創 1300 年記念事業

そんな中で浮上したのが、各寺院の皆さまが毎日楽しみにしているコーヒーを 1 杯だけ我慢していただく案でした。昔ながらの喫茶店でおいしいコーヒーを飲む回数を 1 回減らして、そのコーヒー代でＰＲ費用を捻出するというアイデアです。「コーヒー1 杯分だけ、心をこめてお願いします」というメッセージでもありました。

このお話を聞いたとき、ビジネス的には「かなり辛いな」と冷や汗が出ましたが、それより寺院さんたちのメッセージに感動したので一緒に頑張ることにしました。コーヒー1 杯という負担にならない心遣いとともに、信頼いただいている気持ちが伝わってきます。また「西国三十三所」のために仕事をすれば、お金の代わりに極楽浄土がついてくるかもしれません。だとしたら、人生最高の仕事ともいえます。

こうして今年から「西国三十三所草創 1300 年記念事業」がスタートしました。とはいえ博覧会のような予算はなく派手な演出はできません。「今あるもの」をいかに活用するかが焦点になります。

「西国三十三所草創 1300 年記念事業」の始まりを告げる「開白」

そこで寺につきものの甘い菓子を食べ歩く「スイーツ巡礼」を始めることにしました。現在、高齢化している巡礼者の年齢を下げ、女性や子供たちにも巡礼文化を広めることが狙いです。この企画は多くの賛同を得て大手菓子メーカーのコラボレーションはもちろん、今では旅行社のツアーに導入されたり、各寺院でスイーツイベントが開催されたりして、少しずつですが動き出しています。

同時に各寺院では、シーズンごとに秘仏や宝物を公開する「特別拝観」や、毎月特定の寺院で特別なご朱印がもらえる「月参り巡礼」もスタートしました。おかげさまで徐々に巡礼者が増えており、若い女性や子供の姿も見かけるようになりました。来年はさらなる展開を仕掛けて、社会的な注目を集めていきたいと思っています。

お寺スイーツ

スイーツ巡礼

スイーツ巡礼に賑わう寺院

ぜひ皆さまもこの機会に、関西の名刹を巡って秘仏や宝物を堪能してください。ご利益たっぷりの甘～い“お寺スイーツ”とともにお待ちしています。

※詳しくは特設サイト「西国三十三所草創 1300 年 今こそ慈悲の心を」をご参照下さい。

http://www.saikoku33-1300years.jp/

『「兆し」をとらえる　報道プロデューサーの先読み力』

野口雄史　著　（株）ＫＡＤＯＫＡＷＡ　800 円（＋税）

テレビは広報にとっては魅力的なメディアである。広報パーソンならご承知だが、その取材対応にはかなりの手間と時間を要する。事前の社内調整やディレクターとの折衝、画になる素材の選定、取材当日の立ち合いまで広報担当は相当のエネルギーと忍耐が要求される。

一方、制作側はそれ以上の手間と時間、コストをかけて、番組を制作する。ニュースのために数人のスタッフが現場へ急行し、映像を収録し、そして、関係者のコメントを拾い、編集し数十秒にまとめ上げる。ましてや、1 時間近いドキュメンタリーともなると、一本のために、数週間、あるいは数か月、長いものでは年の単位の時間をかける。対応する企業広報もたいへんだが、制作側の努力と忍耐は想像しがたい。

本書『「兆し」をとらえる～報道プロデューサーの先読み力』は、経済ドキュメンタリー番組の裏側を明かす貴重な資料である。著者は、経済ドキュメンタリー番組として評価の高いテレビ東京「ガイアの夜明け」を長年にわたり担当してきたプロデューサー野口雄史氏。

ドキュメンタリー制作の内幕を明かすその内容は、広報にかかわる人々には興味深い。著者は営業部門を経て、国会担当記者を経験しながら『ガイアの夜明け』の立ち上げに参画、その後、チーフプロデューサー等として 10 年以上にわたり制作に携わったプロフェッショナルである。

ドキュメンタリー制作は、長期間を要する。数か月から内容によっては数年がかりでまとめるという。事実の流れの中で当初に想定した通りの結果にならないことも多く、取材をはじめる時点では結末は想像できないという。それなのに、どのような考えのもとに取材を始めるのか？

著者は語る。その制作は、〝面白くなりそう〟〝世の中に伝えるべき〟との〝兆し〟あるいは〝可能性〟を信じることから始まる。長期にわたる取材のなかで、だれもが予想もしなかった展開となりボツになるケースも、年に数例はあるという。

結果のみえないまま制作を進めるため、取材を嫌がられたり拒否されるケースも少なくない。そんな時、著者は「生の姿を撮影していきたい、このようなメッセージを番組として表現していきたい」との趣旨と熱意で相手を説得する。そして暗中模索から思わぬ運びとなり、取材を受ける側もする側も驚く展開となり、生々しい事実で構成し、放映にこぎつける。時には感動的なエンディングとして結実する。そこに人間ドラマを追うドキュメンタリーの醍醐味がある。

例をあげると、ある主婦が家庭の事情から仕事を探すプロセスに密着し、ユニバーサルスタジオジャパンにパートで採用されるまでの経緯を描いたケース。数年後、その主婦は仕事ぶりを認められ、番組を視たレストランチェーンの正社員にスカウトされたという。また、清浄な水を求めるバングラディッシュの人々の要望に応え現地に浄化設備を設置しようという取組みを進めるある社長。自社における不祥事の発生を秘めたまま現地に旅立ち取材に応じた。放映後、現地の人々が喜ぶ姿を見た視聴者からの手紙に、社長が密かに号泣するという余話も語られる。予想もしなかった感動的な展開が、さまざまな制作事例における数々のエピソードとして紹介される。

企業は、ストレート・ニュースや報道番組の特集などで、テレビ取材を申し込まれることが多い。広報は、自社にとって広報効果あるいはメリットが期待できるか、リソースは確保できるか、といった検討で対応の可否を判断する。だが、ドキュメンタリーへの対応は、そのような判断方法は適切ではないようだ。当面の自社の利益に束縛されることではなく、その社会的な意義や価値に対する理解や配慮が求められることになる。公共性を尊重するとともに、企業を超えた社会的かつ人間的な視点を持つべき広報のプロフェッショナルにとって、本書はドキュメンタリーの本質を〝とらえる〟貴重な一冊である。

PRSJ in Media

●10 月 1 日（土）　『月刊広報会議』11 月号

『月刊広報会議』11 月号における当協会の連載コラムに、10 月号に引き続いて「2016 年度ＰＲアワードグランプリ」についての解説が掲載されました。

今月号では、今年度より大きく変わった審査・表彰の枠組み、新たな審査体制が委員の氏名とともに紹介されています。また、審査委員長に選出された嶋浩一郎氏（博報堂ケトル 代表取締役社長）による審査基準に関するコメントが紹介され、ＰＲに取り組む各種機関に対し積極的なエントリーが呼びかけられています。

編集担当より

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会
Ｅメール　mail@prsj.or.jp
ＦＡＸ　03－5413-2147

※　禁転載